

令和4年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,461	8,757	4,442	4,315	23	6
2 千 石	3,905	6,618	3,398	3,220	△ 4	△ 21
3 内 山	5,526	7,840	4,177	3,663	20	3
4 大 和	3,345	6,527	3,186	3,341	△ 59	△ 104
5 上 野	7,313	15,361	7,501	7,860	△ 83	△ 128
6 高 見	7,197	13,146	6,265	6,881	7	△ 24
7 春 岡	6,793	10,930	5,715	5,215	△ 3	△ 42
8 田 代	11,146	21,700	10,341	11,359	△ 11	△ 119
9 東 山	10,213	19,141	9,335	9,806	△ 50	△ 151
10 見 付	4,415	8,229	4,130	4,099	△ 9	△ 79
11 星 ケ 丘	3,497	6,787	3,015	3,772	14	△ 37
12 自 由 ケ 丘	3,556	7,283	3,286	3,997	△ 7	△ 14
13 富 士 見 台	6,492	15,240	6,945	8,295	6	△ 26
14 宮 根	3,761	8,045	3,712	4,333	7	△ 11
15 千 代 田 橋	3,697	8,317	3,928	4,389	1	△ 16
千 種 区 計	86,317	163,921	79,376	84,545	△ 148	△ 763
R3.4.1	86,350	164,385	79,697	84,688	△ 133	△ 795
対 前 年 比	△ 33	△ 464	△ 321	△ 143	△ 15	32
名 古 屋 市	1,131,709	2,317,985	1,137,456	1,180,529	3,409	△ 2,876
愛 知 県 (R4.3.1)	3,256,912	7,497,875	3,734,192	3,763,683	△ 857	△ 5,369

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	84	163	△ 79	2,316	3,000	△ 684

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

令和3年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

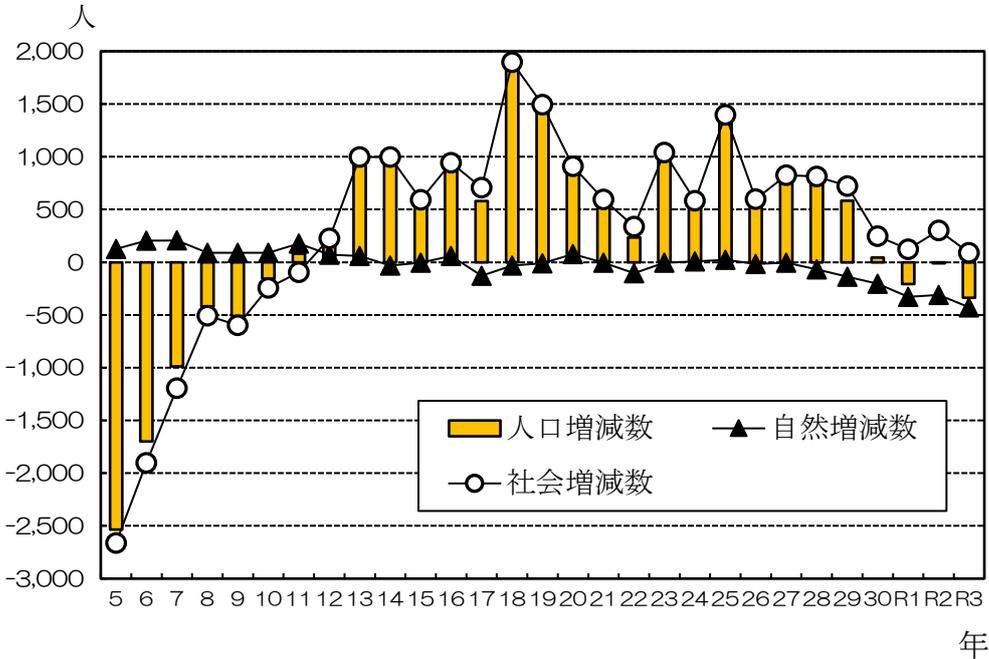


図1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移 (各年前年10月～当年9月)

令和3年10月現在の千種区の人口数は、前年同月比338人減少の164,907人となっており、名古屋市16区のうち4番目の人口規模です。図1の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成30年まで増加していましたが直近の3年間は減少しています。一方、自然増減数(出生数-死亡数)は年々減少しており、令和3年は過去30年の中で一番多い427人の減少でした。千種区の人口増減数の変化は社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。そこで、社会増減数およびこれを左右する転入数・転出数について見ていきます。

令和2年10月から令和3年9月までの千種区の社会増減数は89人の増加となっており(図2)、名古屋市16区の中で8番目となっています。自然増減数は前年比で427人減少しています。また、社会増減数は平成12年以降転入超過を維持しています。

また、人口移動数(転入数+転出数)は26,173人で、中区に次いで16区中2番目となっています。

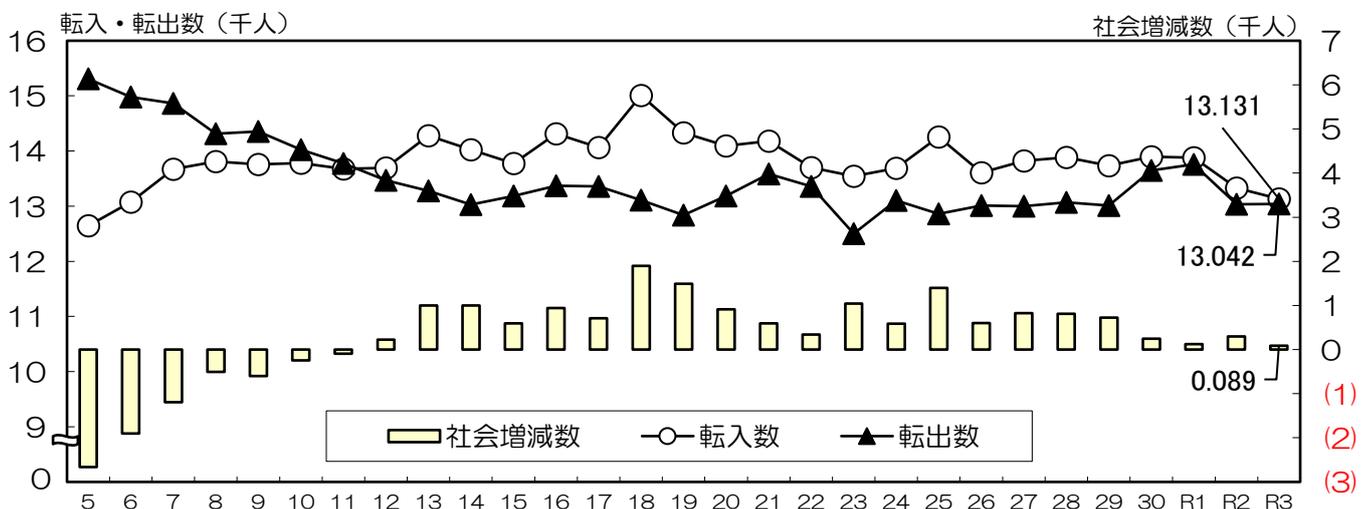


図2: 千種区の平成5年以降の社会増減数、転入数および転出数の推移 (各年前年10月～当年9月)